

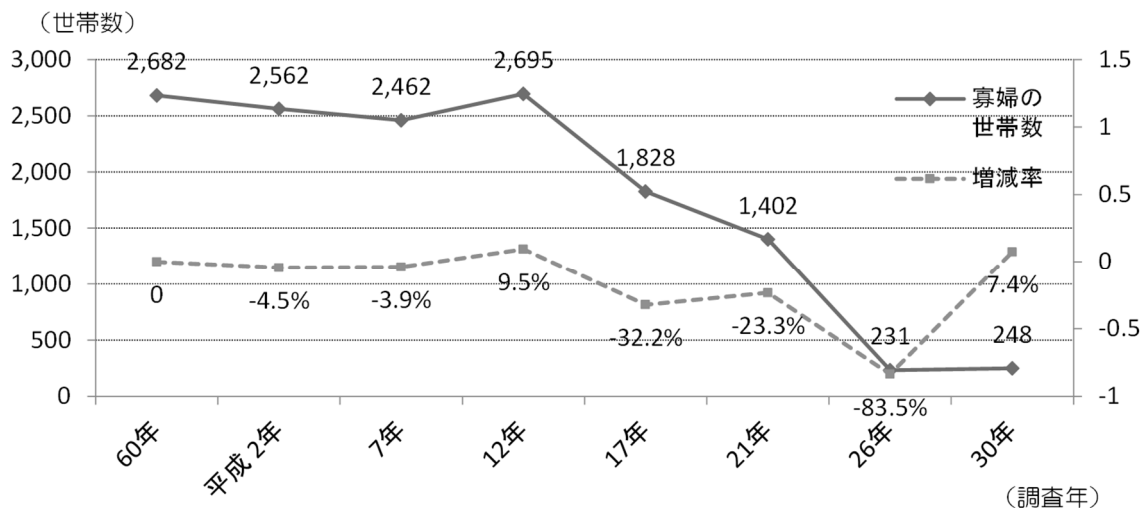
第3章 ひとり暮らし寡婦の生活実態

1 ひとり暮らし寡婦の世帯の推移

1-1 世帯数の年次別推移

本県の40歳以上65歳未満のひとり暮らし寡婦の世帯数は、平成30年4月1日現在で248世帯であり、前回調査（平成26年4月）に比べ、17世帯、7.4%の増加となっている。

【図 1-1 ひとり暮らし寡婦の世帯数の年次別推移】



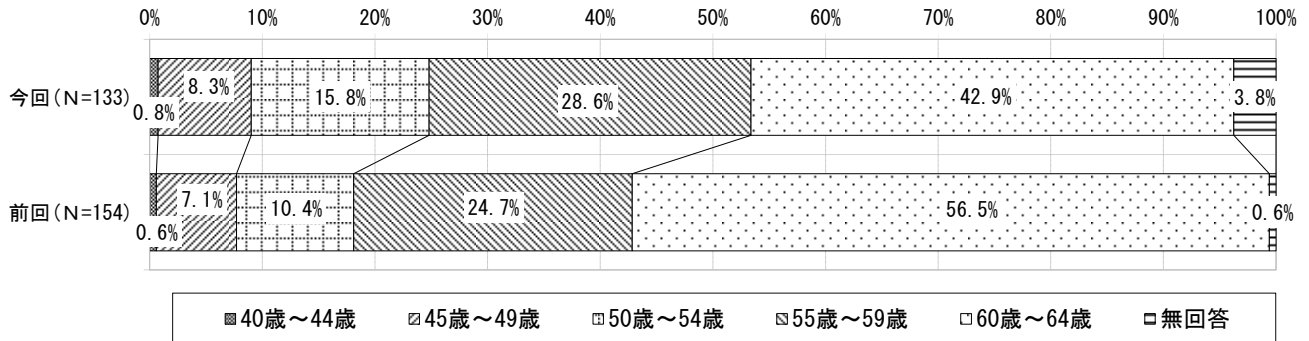
【表 1-1 ひとり暮らし寡婦の世帯数の年次別推移】

調査年月	項目	母子家庭の世帯数	前回調査との比較		県全世帯数 (B)	出現率 (A/B)
			増減数	増減率		
60年 9月		2,682	—	—	323,019	0.83%
平成2年 9月		2,562	-120	-4.5%	358,358	0.71%
7年 9月		2,462	-100	-3.9%	400,260	0.62%
12年 9月		2,695	233	9.5%	445,332	0.61%
17年 3月		1,828	-867	-32.2%	484,685	0.38%
21年 4月		1,402	-426	-23.3%	521,926	0.27%
26年 4月		231	-1,171	-83.5%	548,352	0.04%
30年 4月		248	17	7.4%	564,472	0.04%

1-2 ひとり暮らし寡婦の年齢

ひとり暮らし寡婦の年齢は、「60歳～64歳」が42.9%で最も多く、次いで「55歳～59歳」が28.6%となっている。前回調査と比較すると、「60歳～64歳」が13.6ポイント減少し、「50歳～54歳」が5.4ポイント増加している。

【図1-2 ひとり暮らし寡婦の年齢】

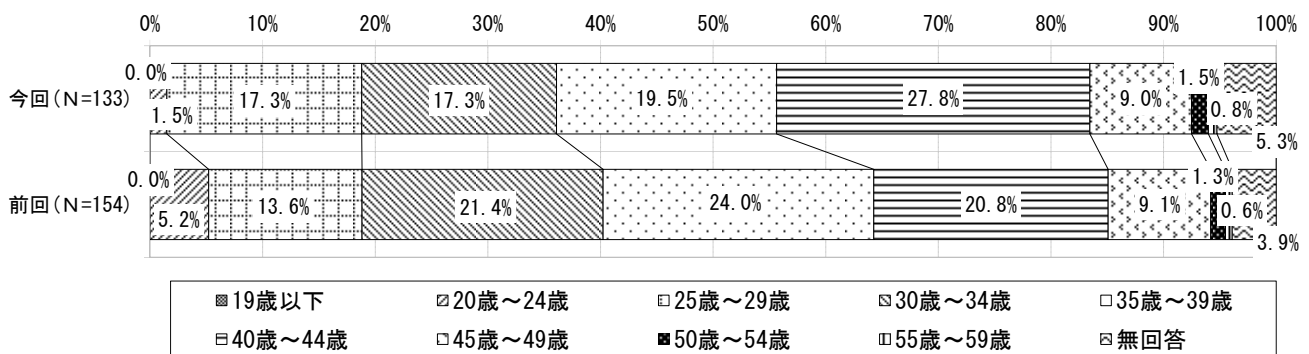


2 ひとり暮らし寡婦の世帯の状況

2-1 配偶者がいなくなった当時の年齢

配偶者がいなくなった当時の年齢は、「40歳～44歳」が27.8%で最も多く、次いで「35歳～39歳」が19.5%となっている。前回調査と比較すると、「40歳～44歳」が7.0ポイント増加し、「35歳～39歳」が4.5ポイント、「30歳～34歳」が4.1ポイント減少している。

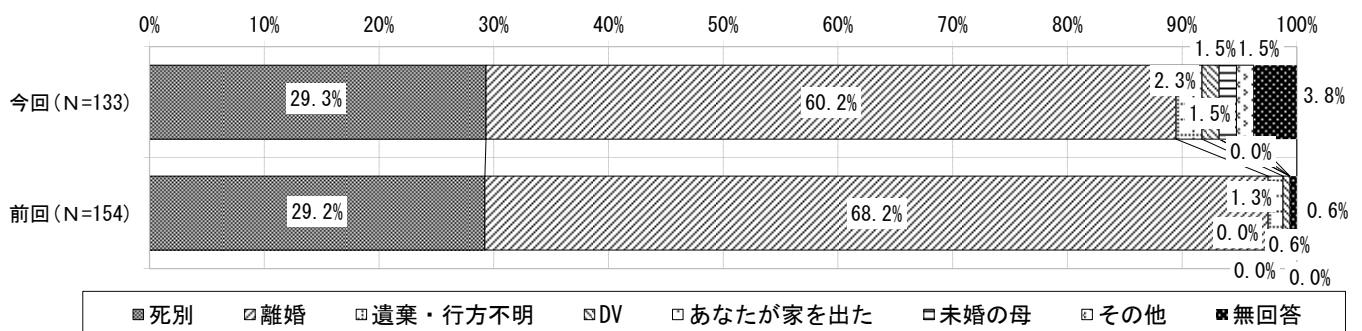
【図2-1 配偶者がいなくなった当時の年齢】



2-2 配偶者がいない原因

配偶者がいない原因は、「離婚」が60.2%と最も多く、次いで「死別」が29.3%、「遺棄・行方不明」が2.3%となっている。前回調査と比較すると、「離婚」が8.0ポイント減少している。

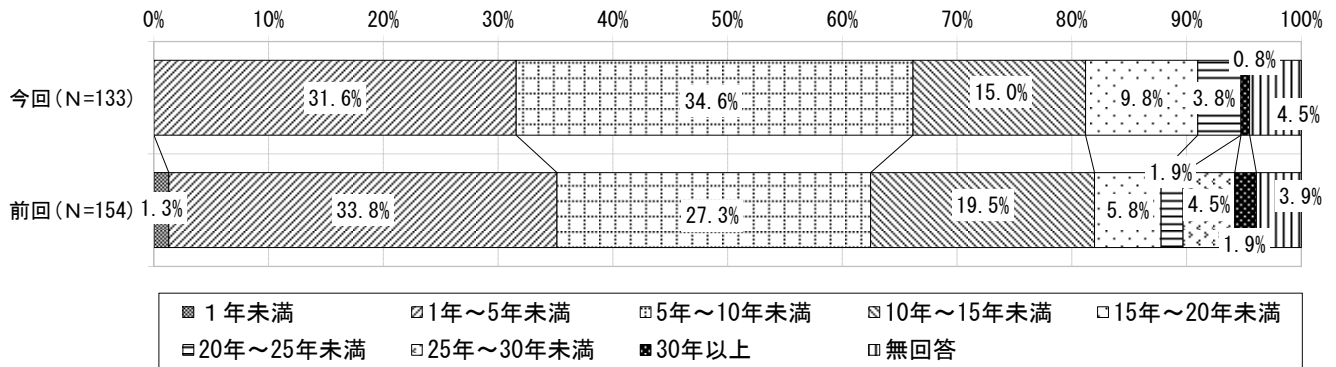
【図2-2 配偶者がいない原因】



2-3 ひとり暮らしになってからの期間

ひとり暮らしになってからの期間は、「5年～10年未満」が34.6%と最も多く、次いで「1年～5年未満」が31.6%、「10年～15年未満」が15.0%となっている。前回調査と比較すると、「5年～10年未満」が7.3ポイント増加し、「10年～15年未満」が4.5ポイント減少している。

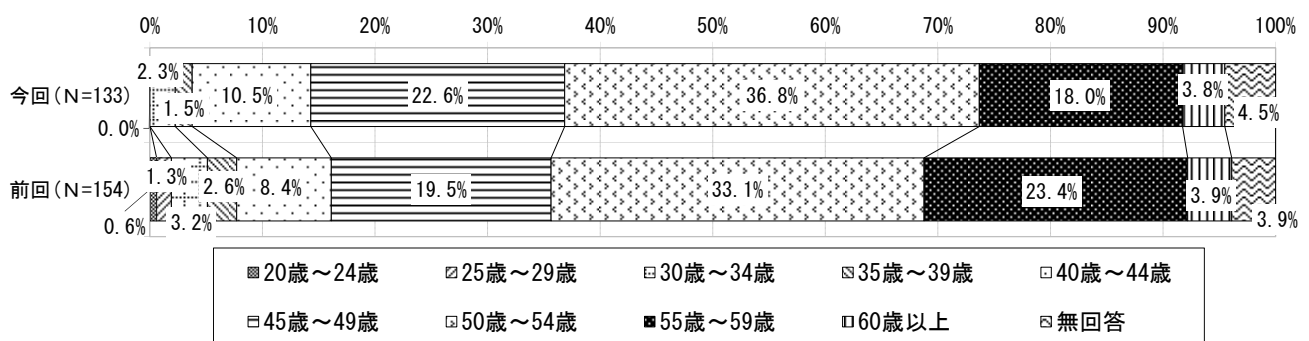
【図2-3 ひとり暮らしになってからの期間】



2-4 ひとり暮らしになった当時の年齢

ひとり暮らしになった当時の年齢は、「50歳～54歳」が36.8%と最も多く、次いで「45歳～49歳」が22.6%、「55歳～59歳」が18.0%となっている。前回調査と比較すると、「45歳～49歳」が3.1ポイント、「50歳～54歳」が3.7ポイント増加し、「55歳～59歳」が5.4ポイント減少している。

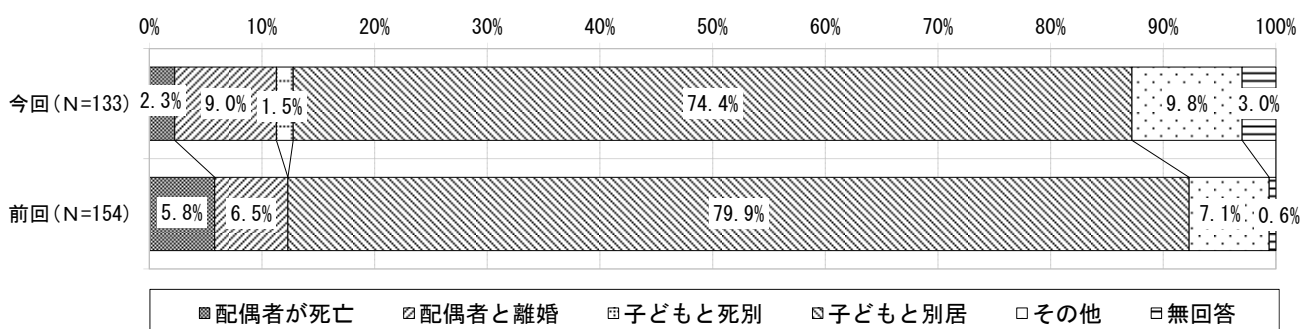
【図2-4 ひとり暮らしになった当時の年齢】



2-5 ひとり暮らしになった理由

ひとり暮らしになった理由は、「その他」を除いて、「子どもと別居」が74.4%と最も多く、次いで「配偶者と離婚」が9.0%となっている。前回調査と比較すると、「子どもと別居」が5.5ポイント減少し、「配偶者と離婚」が2.5ポイント増加している。

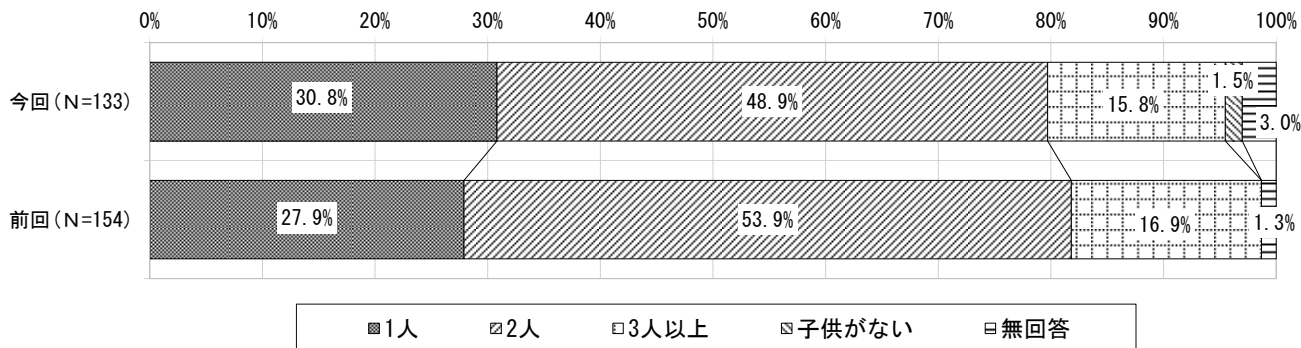
【図2-5 ひとり暮らしになった理由】



2-6 別居している子どもの数

別居している子どもの数は、「2人」が48.9%と最も多く、次いで「1人」が30.8%、「3人以上」が15.8%となっている。前回調査と比較すると、「1人」が2.9ポイント増加し、「2人」が5.0ポイント減少している。

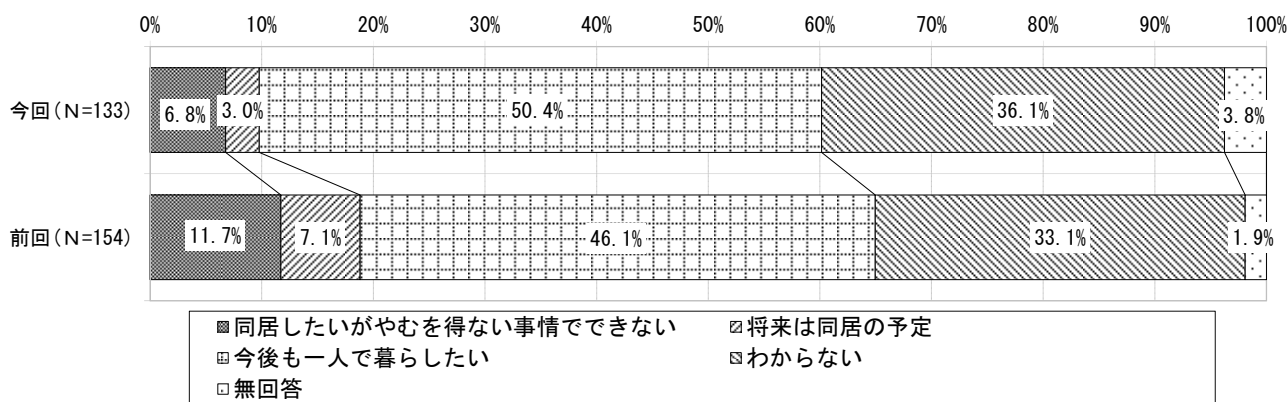
【図2-6 別居している子どもの数】



2-7 別居している子どもとの同居希望

別居している子どもとの同居希望は、「今後も一人で暮らしたい」が50.4%と最も多く、次いで「わからない」が36.1%、「同居したいがやむを得ない事情でできない」が6.8%となっている。前回調査と比較すると、「今後も一人で暮らしたい」が4.3ポイント増加し、「同居したいがやむを得ない事情でできない」が4.9ポイント減少している。

【図2-7 別居している子どもとの同居希望】

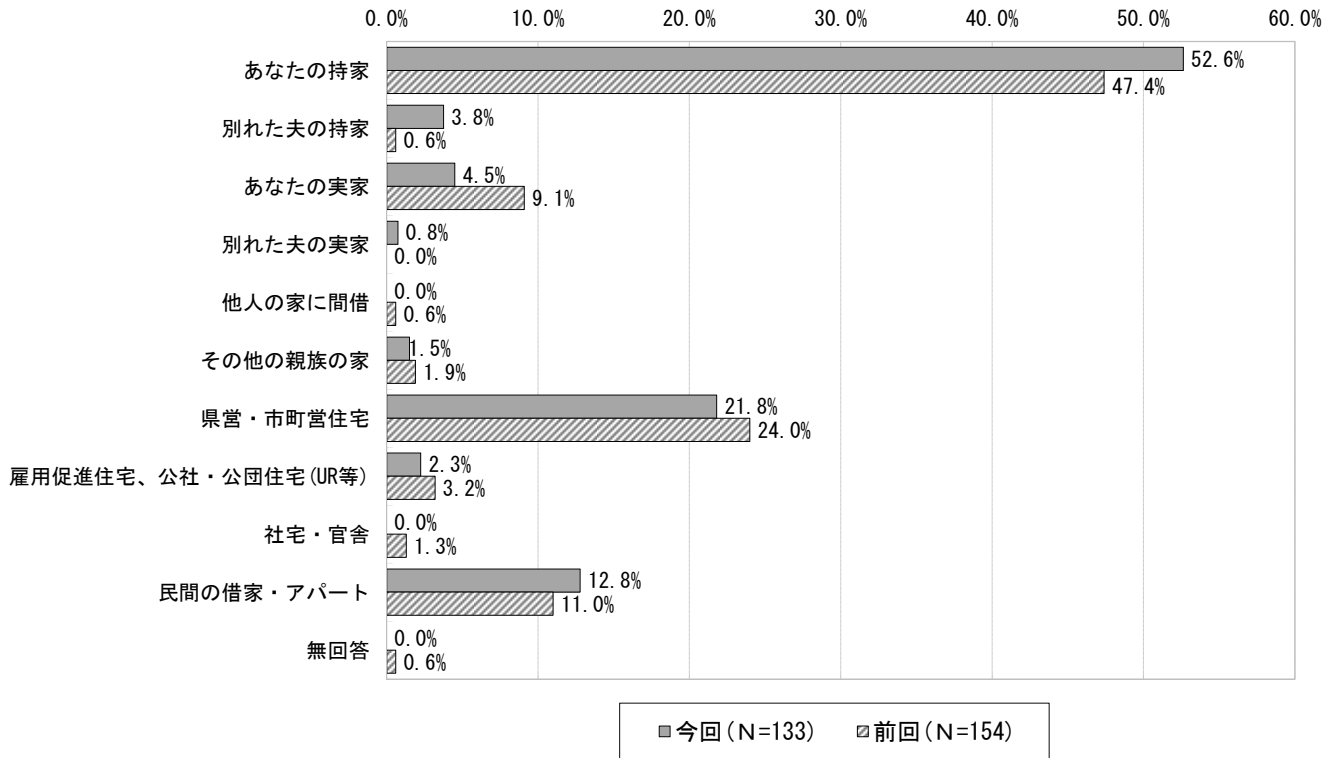


3 住居の状況

3-1 現在の住居

現在の住居は、「あなたの持家」が52.6%と最も多く、次いで「県営・市町営住宅」が21.8%、「民間の借家・アパート」が12.8%となっている。前回調査と比較すると、「あなたの持家」が5.2ポイント増加し、「あなたの実家」が4.6ポイント減少している。

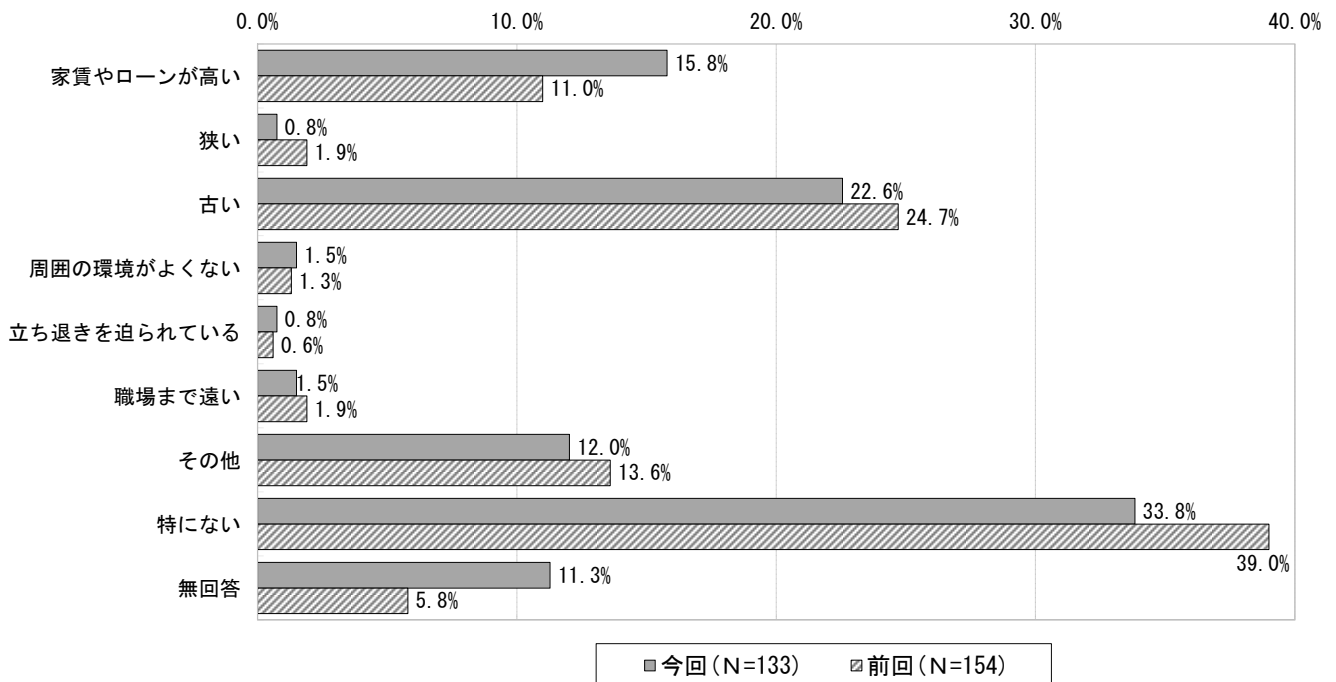
【図 3-1 現在の住居】



3-2 現在の住居で困っていること

現在の住居で困っていることは、「特にない」が33.8%と最も多く、次いで「古い」が22.6%、「家賃やローンが高い」が15.8%となっている。前回調査と比較すると、「家賃やローンが高い」が4.8ポイント増加している。

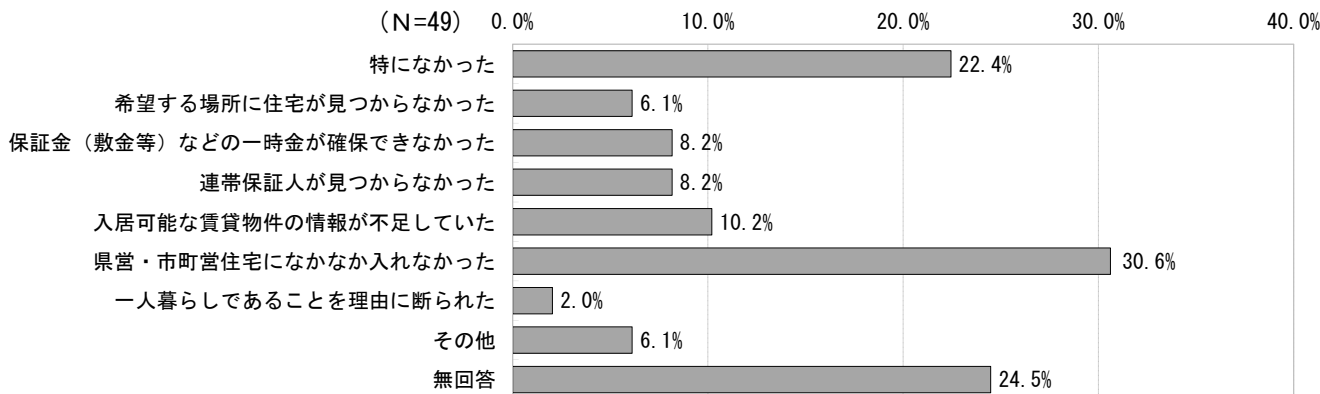
【図 3-2 現在の住居で困っていること (複数回答)】



3-3 賃貸住宅を探す時に困ったこと

現在の住居が賃貸住宅である場合、賃貸住宅を探す時に困ったことは、「県営・市町営住宅になかなか入れなかった」が30.6%で最も多く、次いで「特になかった」が22.4%、「入居可能な賃貸物件の情報が不足していた」が10.2%となっている。

【図 3-3 賃貸住宅を探す時に困ったこと（複数回答）】



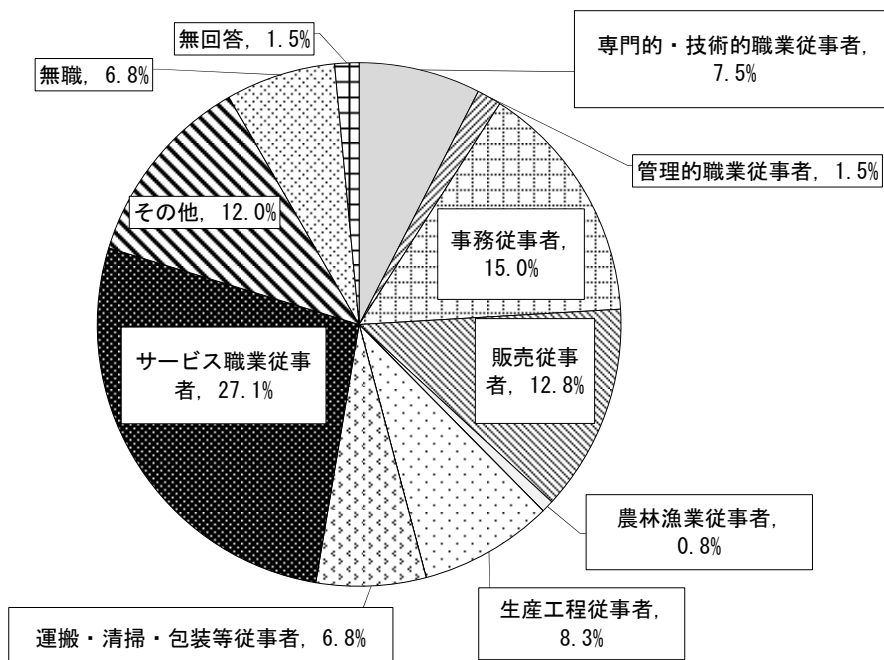
※賃貸住宅には県営・市町営住宅、雇用促進住宅、公社・公団住宅、社宅・官舎、民間の借家・アパートが含まれる。

4 就労状況

4-1 現在の職業

現在の職業は、「サービス職業従事者」が27.1%と最も多く、次いで「事務従事者」が15.0%、「販売従事者」が12.8%となっている。

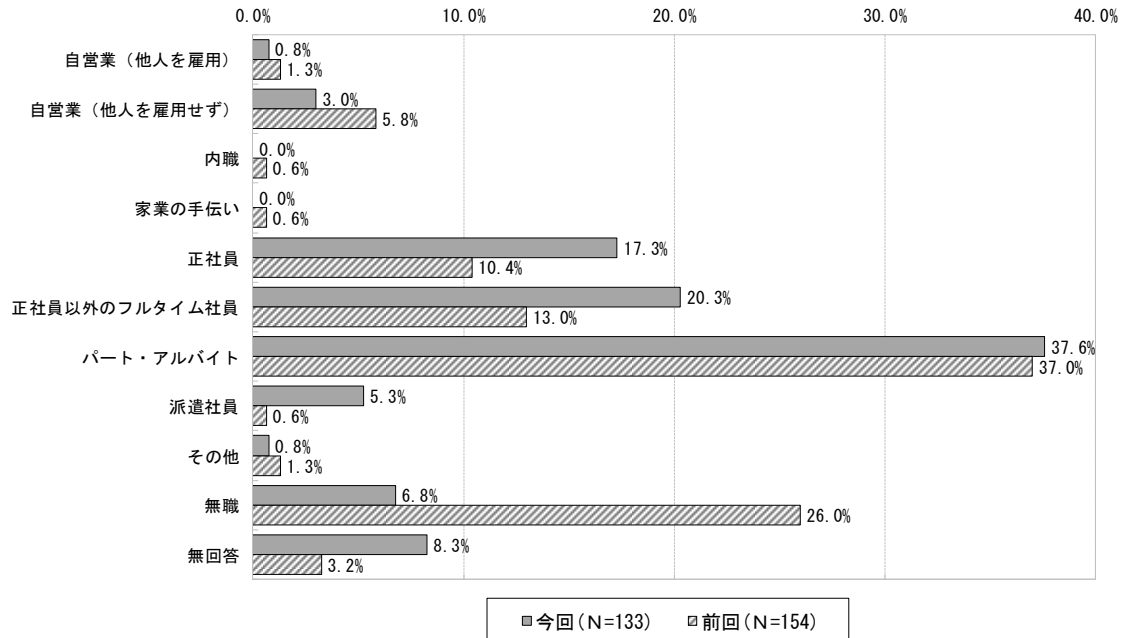
【図 4-1 現在の職業】



4-2 現在の就労形態

現在の就労形態は、「パート・アルバイト」が37.6%と最も多く、次いで「正社員以外のフルタイム社員」が20.3%、「正社員」が17.3%となっている。前回調査と比較すると、「正社員」が6.9ポイント、「正社員以外のフルタイム社員」が7.3ポイント増加し、「無職」が19.2ポイント減少している。

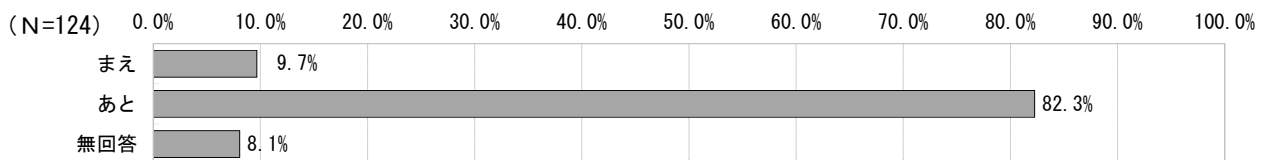
【図 4-2 現在の就労形態】



4-3 現在の仕事に就いた時期

現在の仕事に就いた時期は、配偶者がいなくなる「あと」が82.3%で、「まえ」が9.7%となっている。

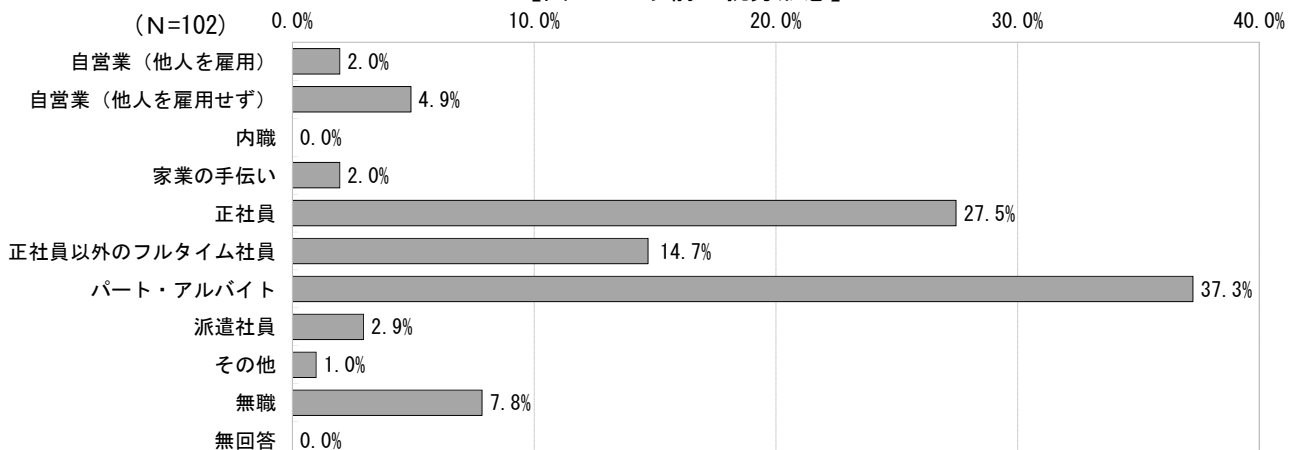
【図 4-3 現在の仕事に就いた時期】



4-4 以前の就労形態

配偶者がいなくなったあと現在の仕事に就いた人で、以前の就労形態については「パート・アルバイト」が37.3%で最も多く、次いで「正社員」が27.5%となっている。

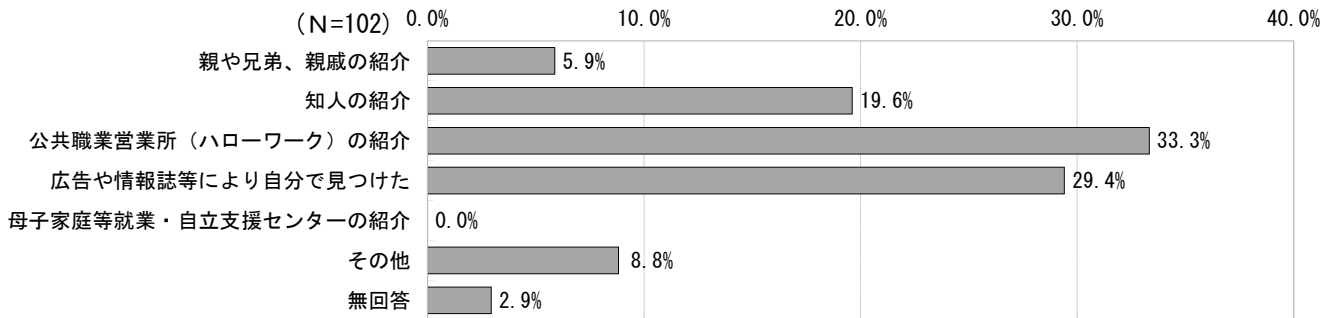
【図 4-4 以前の就労形態】



4-5 現在の仕事を見つけた方法

配偶者がいなくなったあと現在の仕事に就いた人で、現在の仕事を見つけた方法については、「公共職業営業所（ハローワーク）の紹介」が33.3%と最も多く、次いで「広告や情報誌等により自分で見つけた」が29.4%、「知人の紹介」が19.6%となっている。

【図 4-5 現在の仕事を見つけた方法】

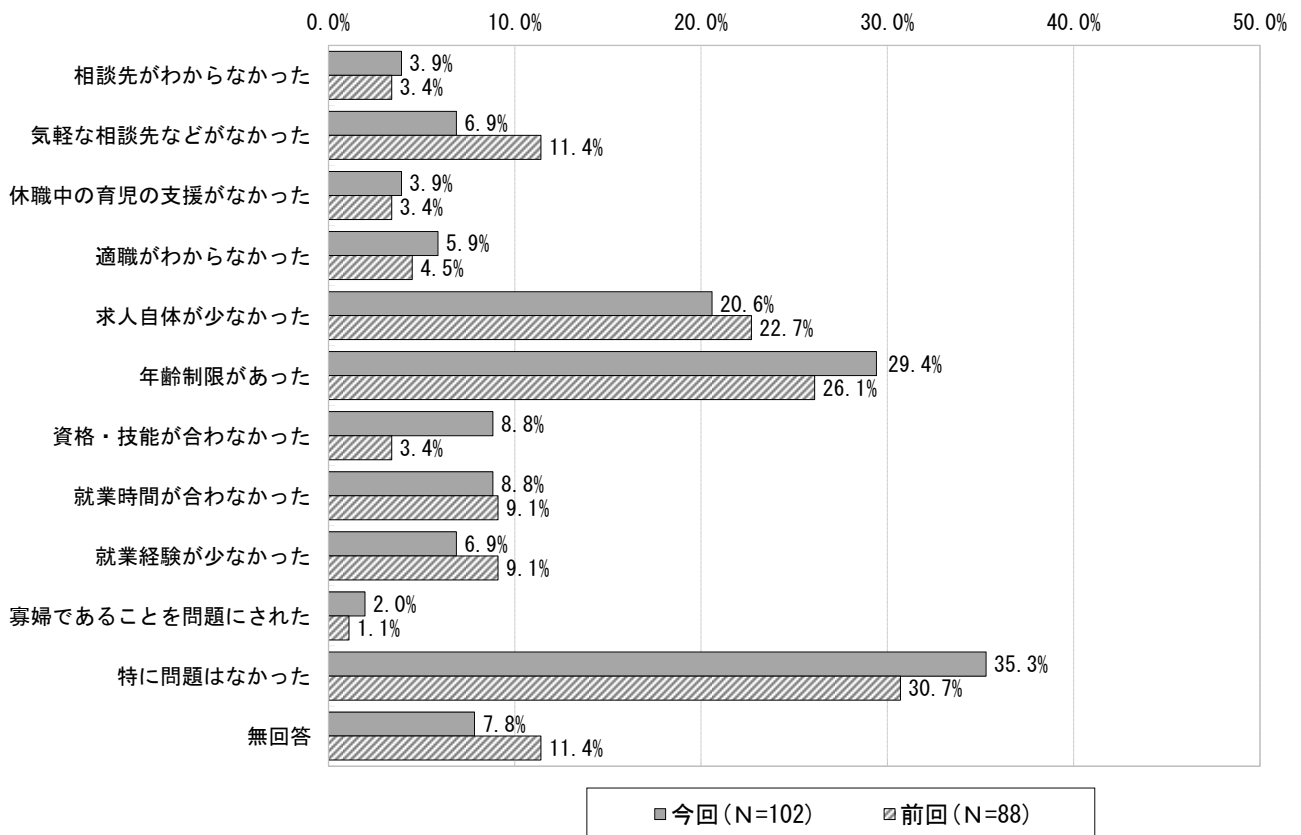


4-6 配偶者がいなくなったあとの求職活動の問題点

配偶者がいなくなったあとの求職活動の問題点は、「特に問題はなかった」が35.3%と最も多く、次いで「年齢制限があった」が29.4%、「求人自体が少なかった」が20.6%となっている。

前回調査と比較すると、「資格・技能が合わなかった」が5.4ポイント、「特に問題はなかった」が4.6ポイント増加し、「気軽な相談先などがなかった」が4.5ポイント減少している。

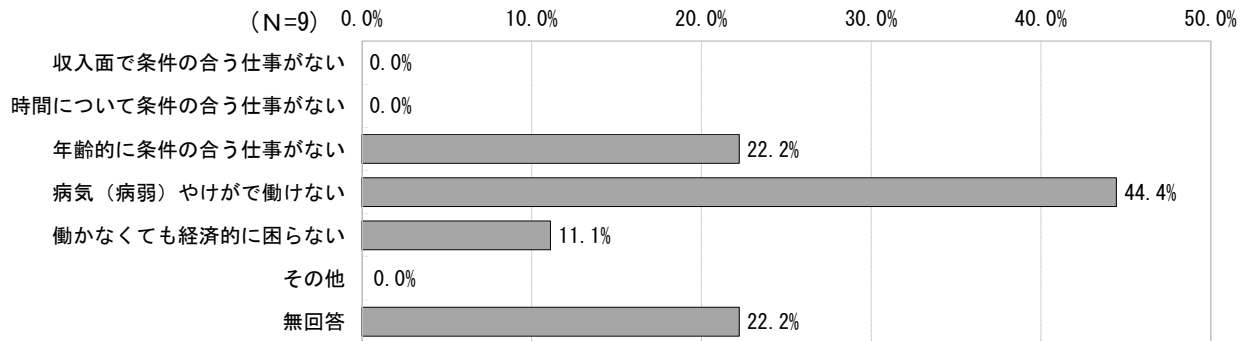
【図 4-6 配偶者がいなくなったあとの求職活動の問題点（複数回答）】



4-7 無職の理由

4-1で無職と回答した人のうち、その理由は、「病気（病弱）やけがで働けない」が44.4%、「年齢的に条件の合う仕事がない」が22.2%となっている。

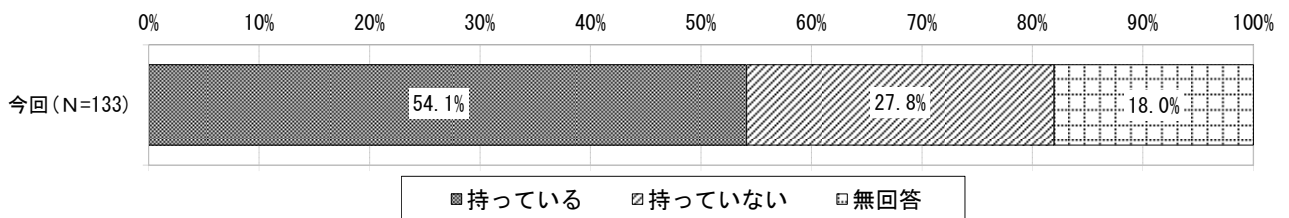
【図4-7 無職の理由】



4-8 資格・技能の取得状況

資格・技能の取得の有無は、「持っている」が54.1%、「持っていない」が27.8%となっている。

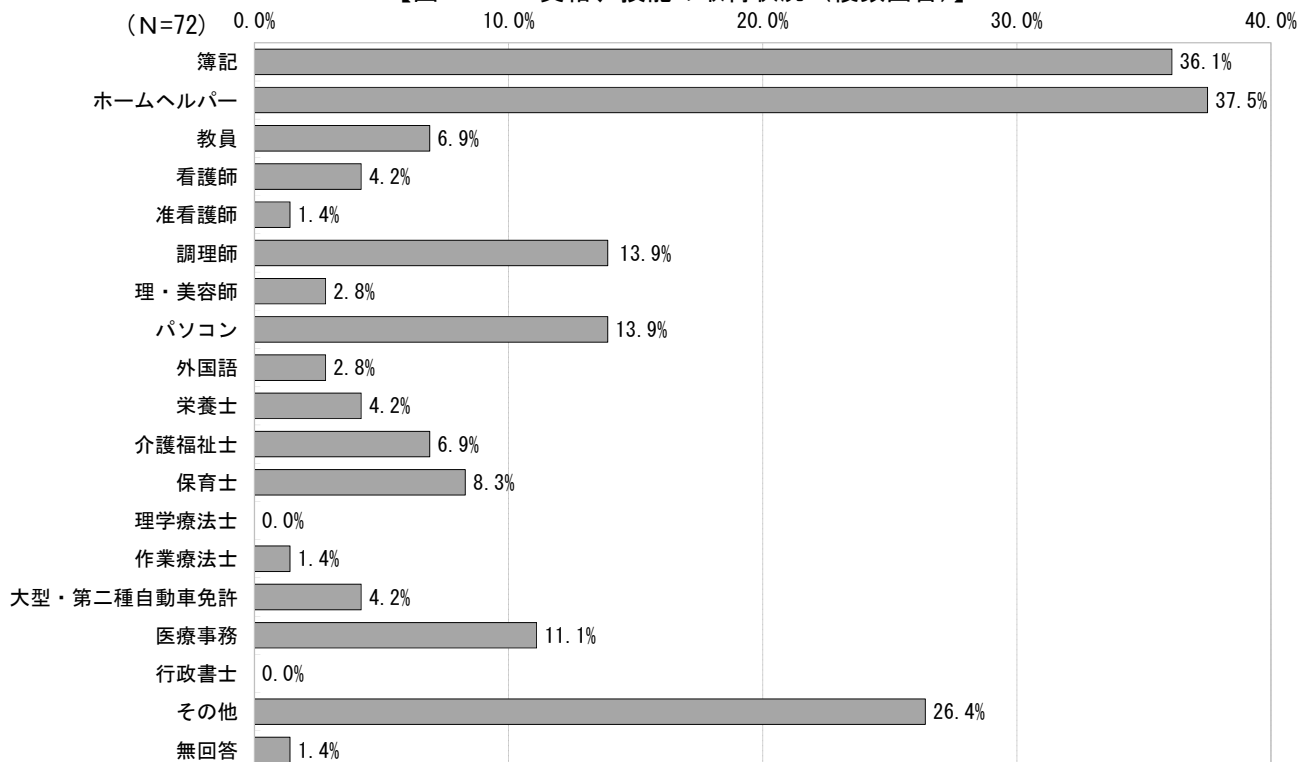
【図4-8 資格・技能の取得の有無】



4-8-1 取得している資格、技能の種類

資格、技能の取得状況は、「その他」を除き、「ホームヘルパー」が37.5%と最も多く、次いで「簿記」が36.1%、「調理師」および「パソコン」が13.9%となっている。その他の主な回答は、珠算、土木施工管理技士等となっている。

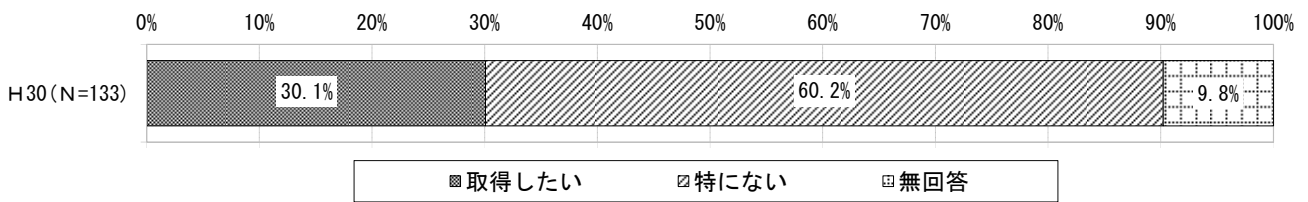
【図4-8-1 資格、技能の取得状況（複数回答）】



4-8-2 資格・技能の今後の取得希望の有無

資格・技能の今後の取得希望の有無は、「取得したい」が30.1%、「特にない」が60.2%となっている。

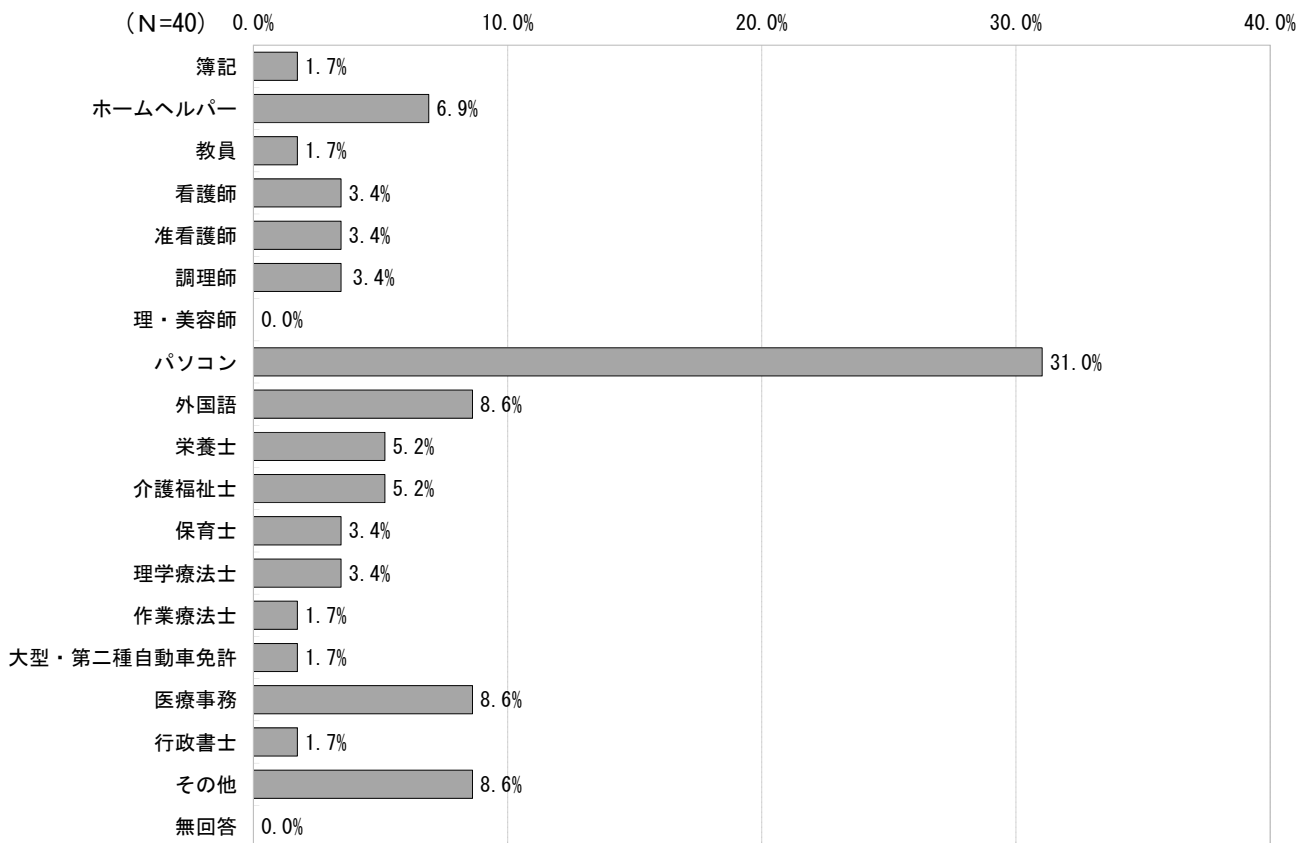
【図 4-8-2 資格・技能の今後の取得希望の有無】



4-8-3 資格・技能の今後の取得希望

今後に資格・技能の取得を希望する人のうち、取得したい資格・技能の種類は、「その他」を除き、「パソコン」が31.0%と最も多く、次いで「外国語」および「医療事務」が8.6%となっている。

【図 4-8-3 資格、技能の今後の取得希望（複数回答）】



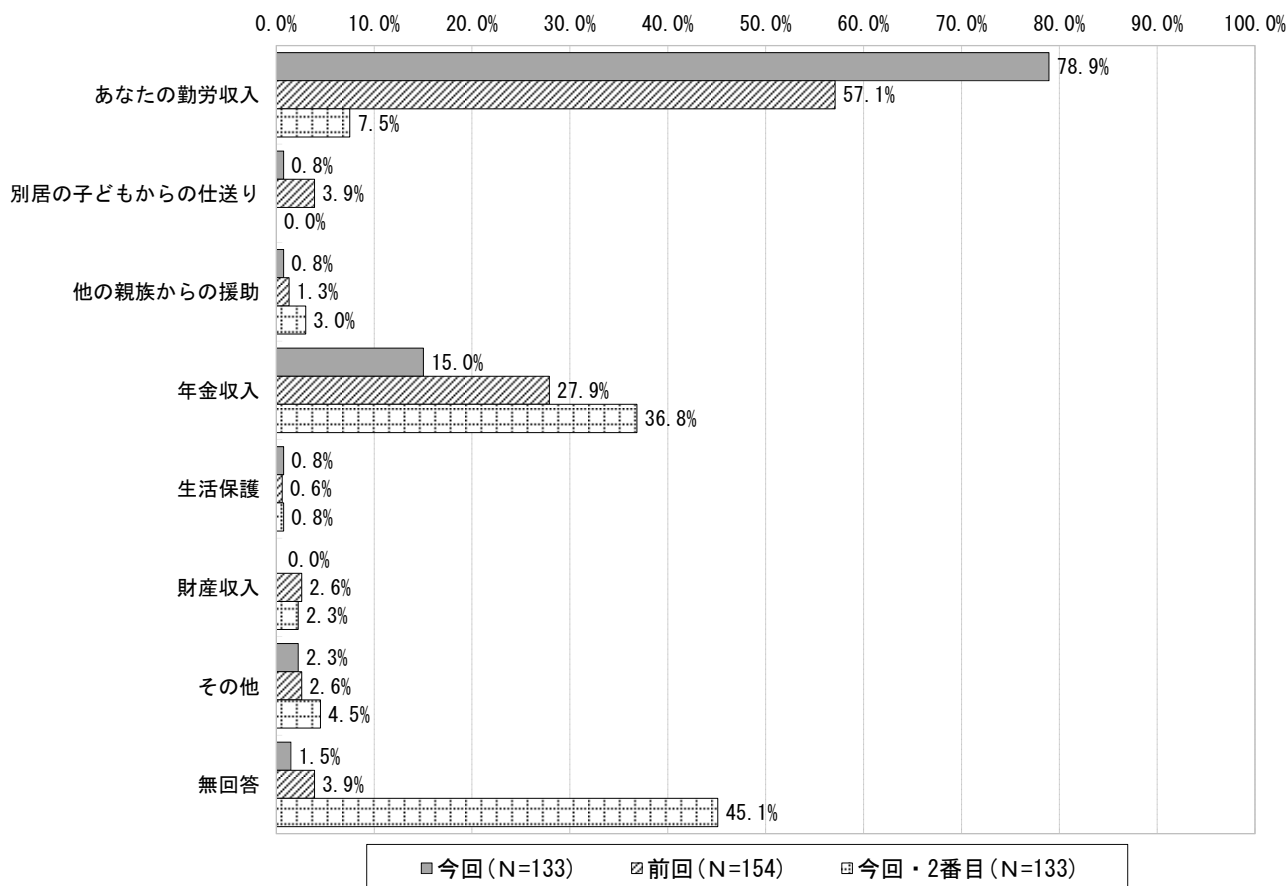
5 所得と生計の状況

5-1 家計の主な収入

家計の主な収入は、「あなたの勤労収入」が78.9%と最も多く、次いで「年金収入」が15.0%となっている。前回調査と比較して「あなたの勤労収入」が21.8ポイント増加し、「年金収入」が12.9ポイント減少している。

家計の2番目に主な収入は、「無回答」を除いて、「年金収入」が36.8%と最も多く、次いで「あなたの勤労収入」が7.5%となっている。

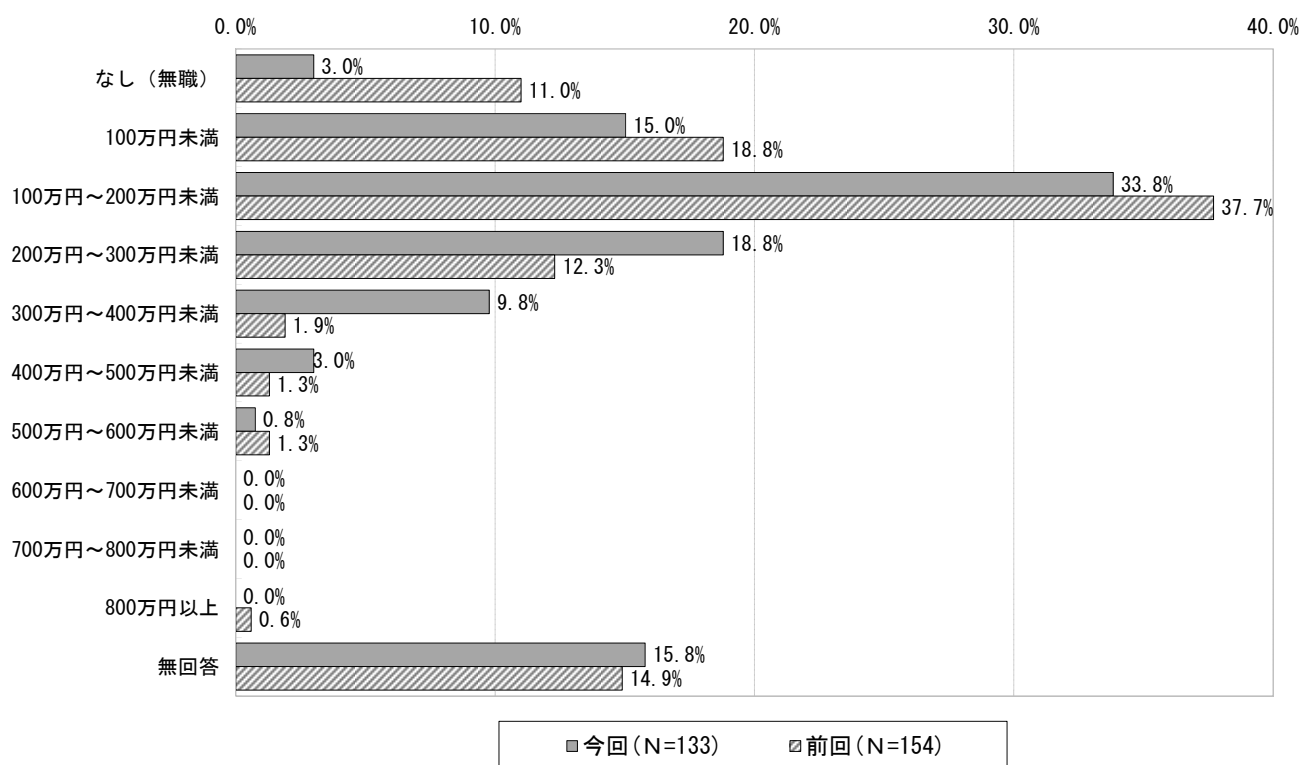
【図 5-1 家計の主な収入（複数回答）】



5-2 ひとり暮らし寡婦の年間勤労収入

ひとり暮らし寡婦の年間勤労収入は、「100万円～200万円未満」が33.8%と最も多く、次いで「200万円～300万円未満」が18.8%、「100万円未満」が15.0%となっている。前回調査と比較すると「300万円～400万円」が7.9ポイント、「200万円～300万円未満」が6.5ポイント増加し、「なし（無職）」が8.0ポイント、「100万円～200万円未満」が3.9ポイント、「100万円未満」が3.8ポイント減少している。

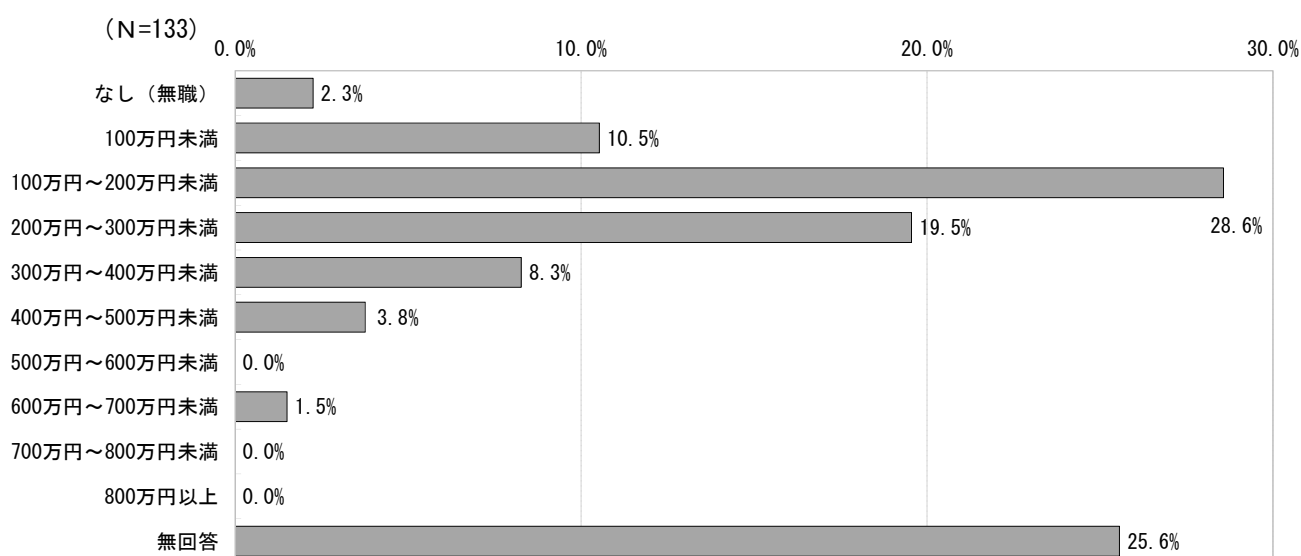
【図 5-2 ひとり暮らし寡婦の年間勤労収入（平成 29 年分）】



5-3 ひとり暮らし寡婦の年間総収入

ひとり暮らし寡婦の年間総収入は、無回答を除いて、「100万円～200万円未満」が28.6%と最も多く、次いで「200万円～300万円未満」が19.5%、「100万円未満」が10.5%となっている。

【図 5-3 ひとり暮らし寡婦の年間総収入（平成 29 年分）】



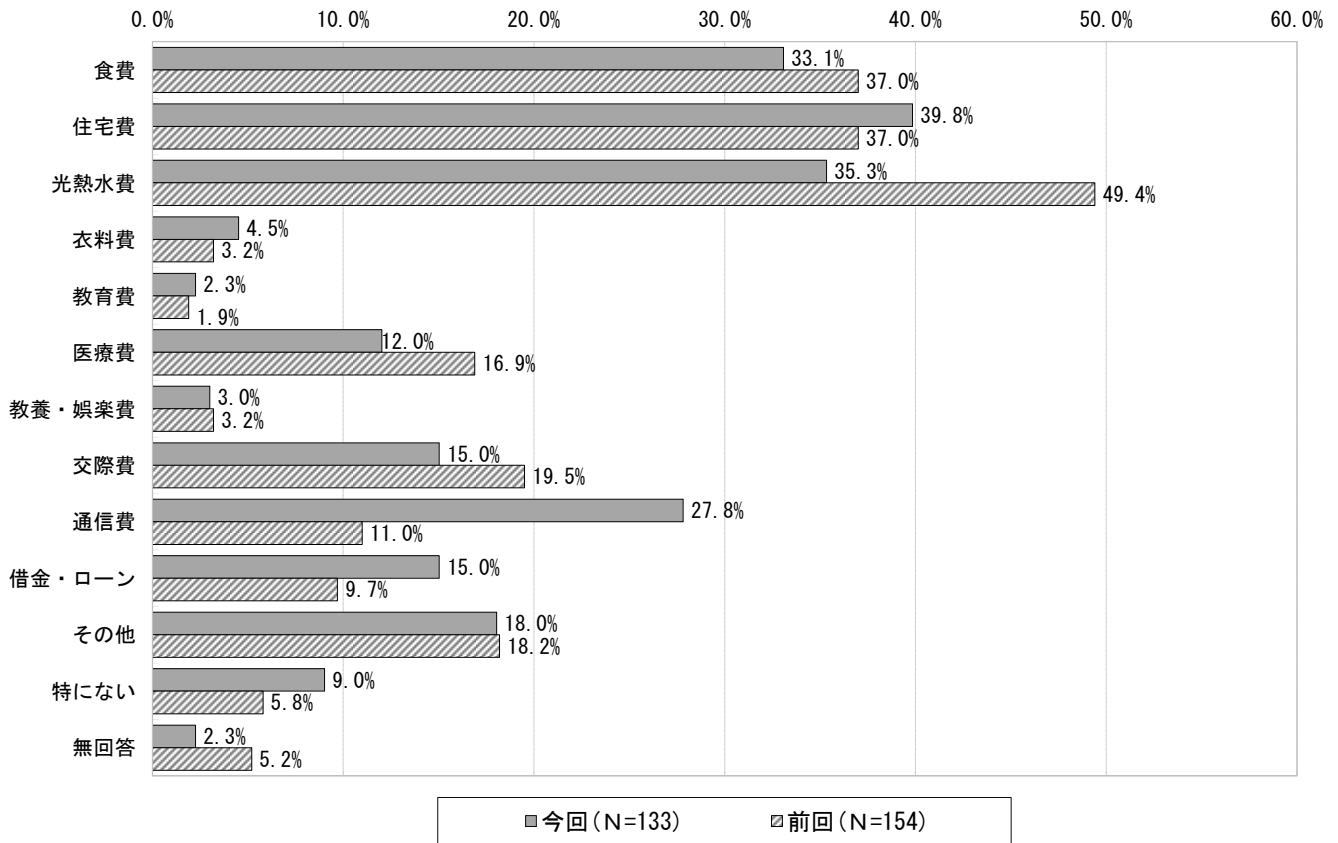
年間総収入は、給料・ボーナスの他、年金、仕送り、生活保護費、財産収入等含む。

5-4 家計の中で負担に感じる費用

家計の中で負担に感じる費用は、「住宅費」が39.8%で最も多く、次いで「光熱水費」が35.3%、「食費」が33.1%となっている。

前回調査と比較すると、「通信費」が16.8ポイント、「借金・ローン」が5.3ポイント増加し、「光熱水費」が14.1ポイント、「医療費」が4.9ポイント減少している。

【図5-4 家計の中で負担に感じる費用（複数回答）】

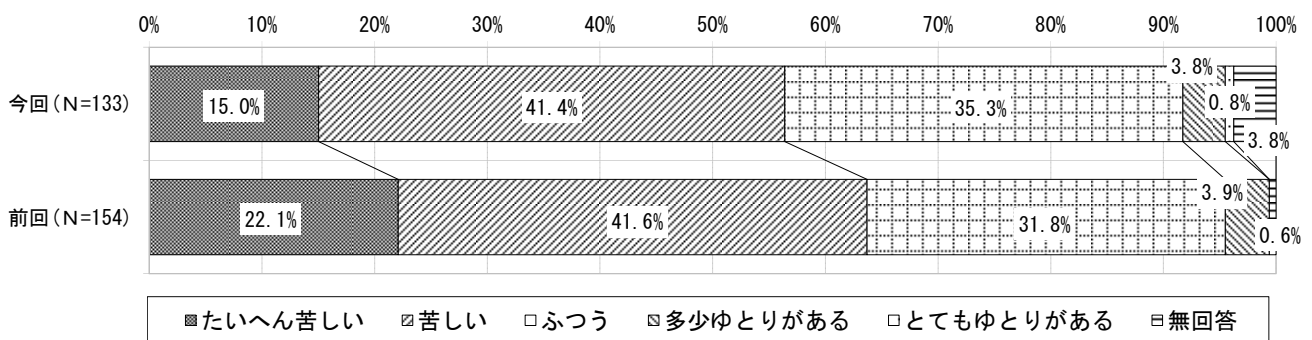


5-5 暮らし向きに対する意識

暮らし向きに対する意識は、「苦しい」が41.4%と最も多く、次いで「ふつう」が35.3%、「たいへん苦しい」が15.0%となっている。

前回調査と比較すると、「ふつう」が3.5ポイント増加し、「たいへん苦しい」が7.1ポイント、減少している。

【図5-5 暮らし向きに対する意識】

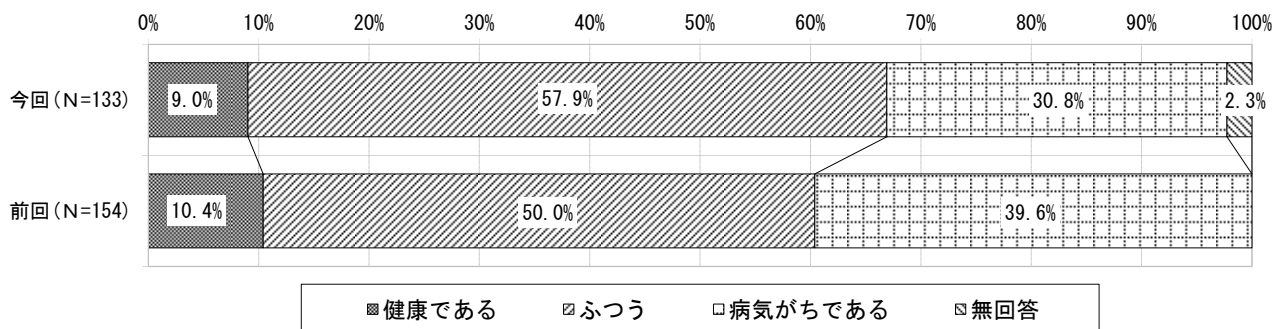


6 健康の状況

6-1 ひとり暮らし寡婦の健康状態

ひとり暮らし寡婦の健康状態は、「ふつう」が57.9%と最も多く、次いで「病気がちである」が30.8%となっている。前回調査と比較して「ふつう」が7.9ポイント増加し、「病気がちである」が8.8ポイント減少している。

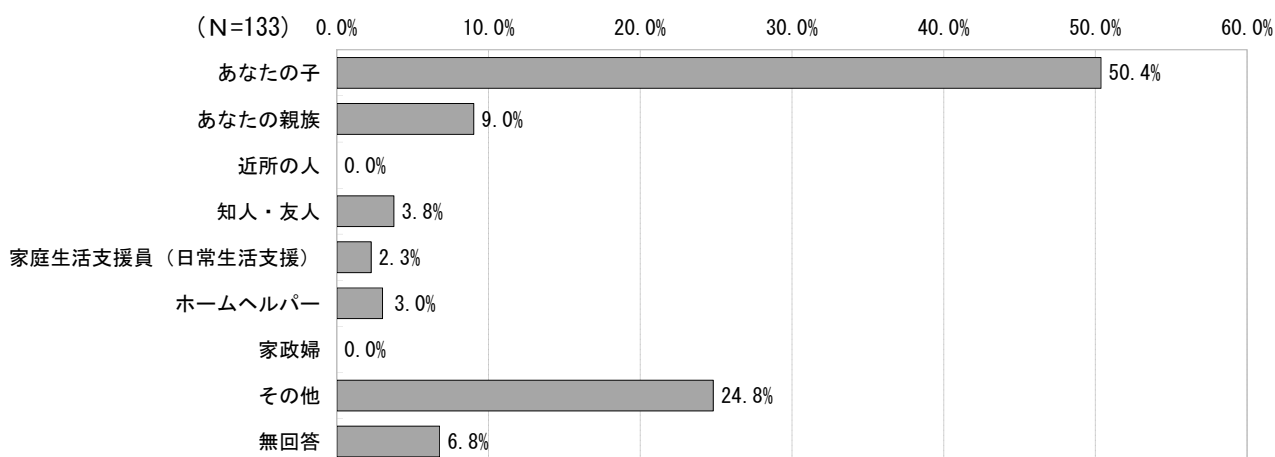
【図 6-1 ひとり暮らし寡婦の健康状態】



6-2 病気になったとき、世話をしてくれる人

ひとり暮らし寡婦の方が病気になったとき、世話をしてくれる人は、「その他」を除き、「あなたの子」が50.4%と最も多く、次いで「あなたの親族」が9.0%、「知人・友人」が3.8%となっている。

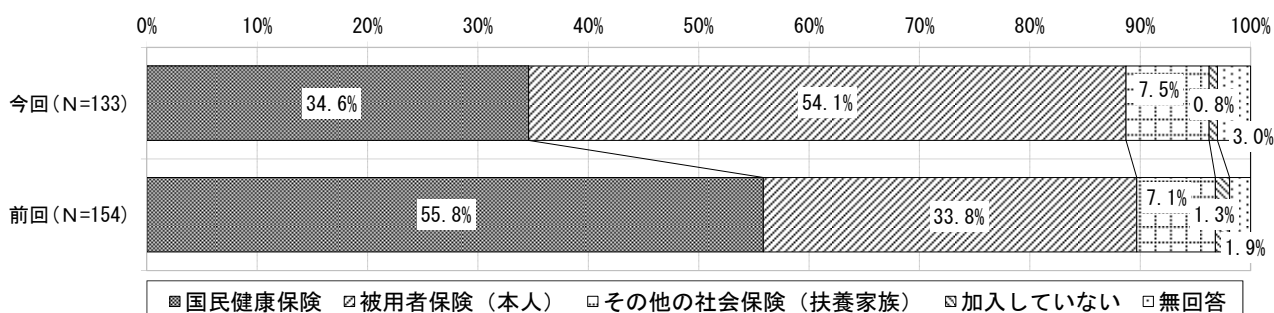
【図 6-2 病気になったとき、世話をしてほしい人】



6-3 健康保険の加入状況

健康保険の加入状況は、「被用者保険（本人）」が54.1%と最も多く、次いで「国民健康保険」が34.6%となっている。前回調査と比較すると、「被用者保険（本人）」が20.3ポイント増加し、「国民健康保険」が21.2ポイント減少している。

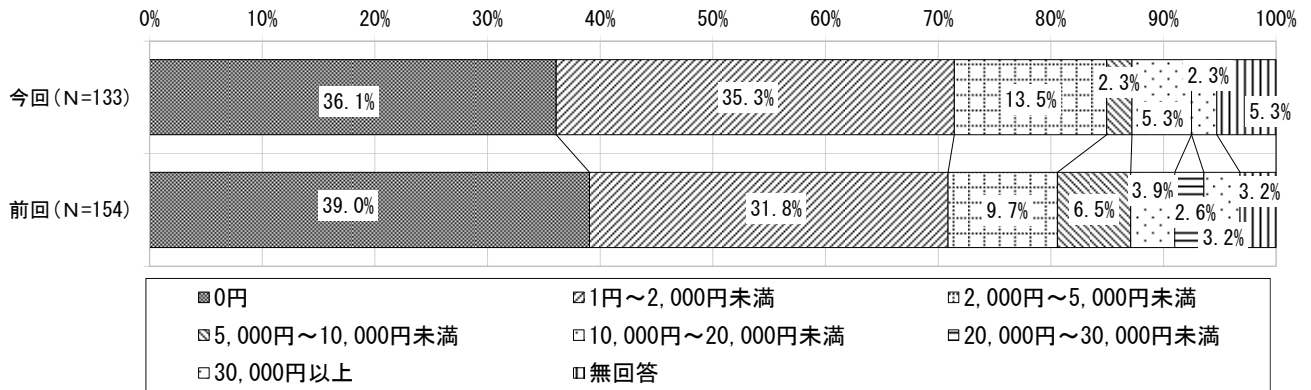
【図 6-3 健康保険の加入状況】



6-4 月当たり医療費

月当たり医療費は、「0円」が36.1%と最も多く、次いで「1円～2,000円未満」が35.3%、「2,000円～5,000円未満」が13.5%となっている。前回調査と比較すると、「1円～2,000円未満」が3.5ポイント、「2,000円～5,000円未満」が3.8ポイント増加し、「5,000～10,000円」が4.2ポイント減少している。

【図 6-4 月当たりの医療費】



7 寡婦福祉施策等

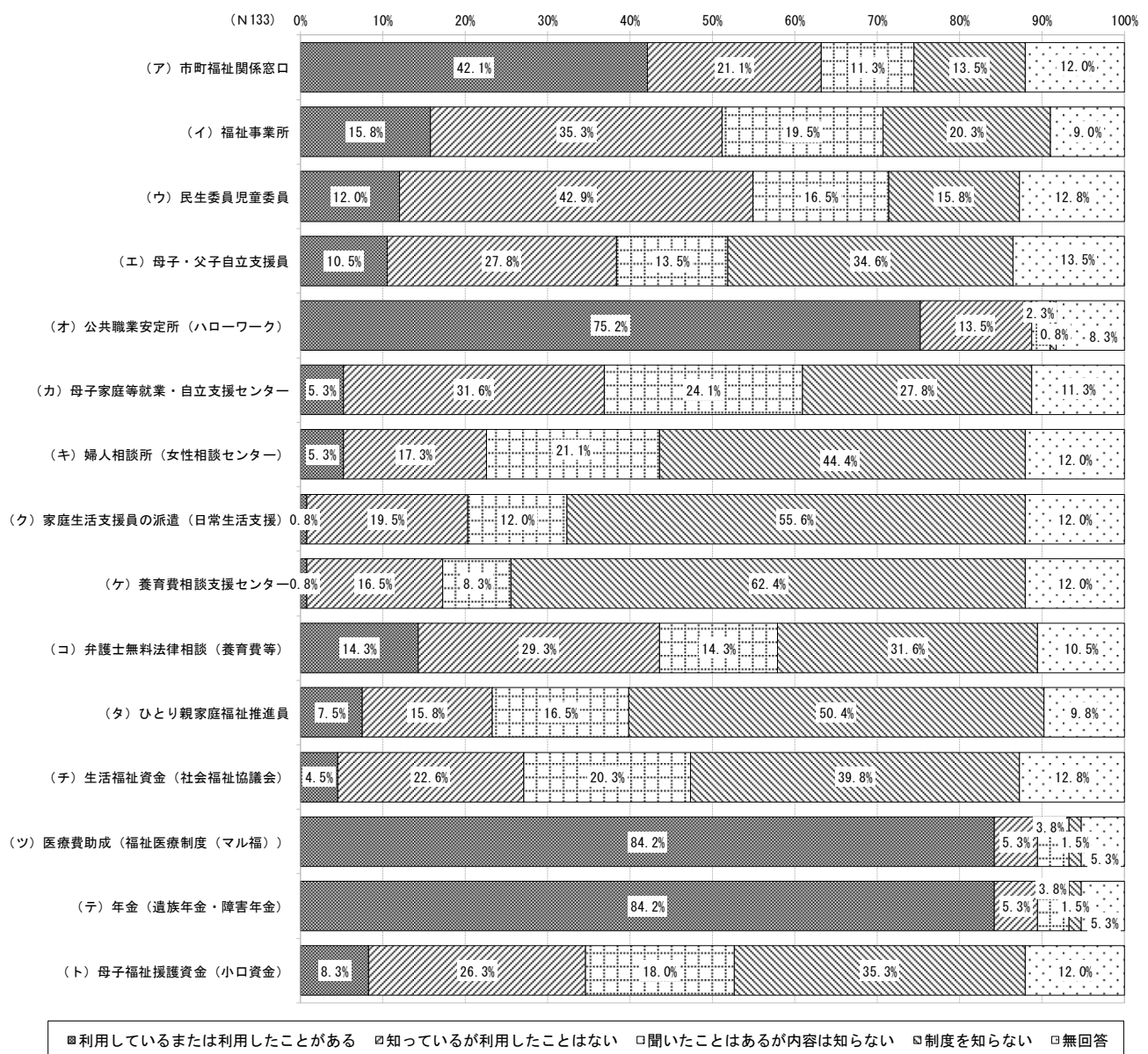
7-1 制度の利用状況

制度の利用状況をみると、利用経験（「利用しているまたは利用したことがある」）は、「医療費助成（福祉医療費制度（マル福）」）、および「年金（遺族年金・障害年金）」が84.2%で最も多く、次いで「公共職業安定所（ハローワーク）」が75.2%、「市町福祉関係窓口」が42.1%となっている。

一方、「制度を知らない」が最も多いのは、「養育費相談支援センター」で62.4%、次いで「家庭生活支援員の派遣」が55.6%となっている。

「知っているが利用したことがない」が最も多いのは、「民生委員児童委員」で42.9%となっている。

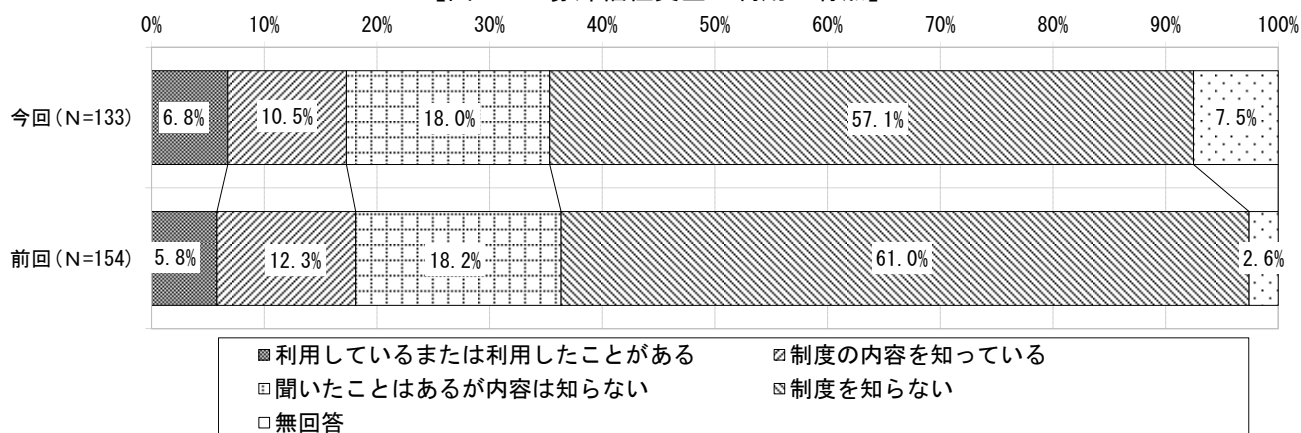
【図 7-1 制度の利用状況】



7-2 寡婦福祉資金の利用の有無

寡婦福祉資金の利用の有無について、「利用しているまたは利用したことがある」は6.8%となっている。「制度を知らない」が57.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」が18.0%となっている。

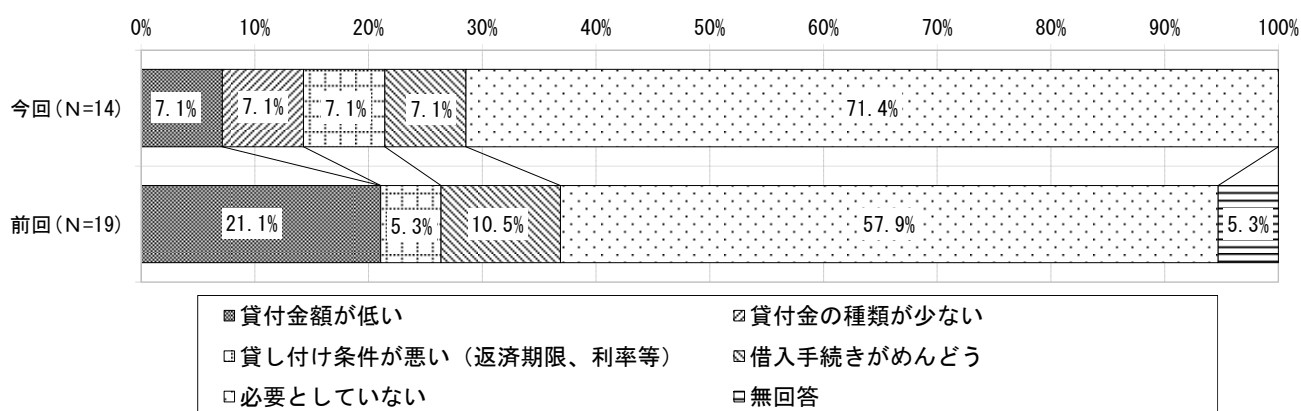
【図 7-2 寡婦福祉資金の利用の有無】



7-2-1 寡婦福祉資金を利用したことがない理由

寡婦福祉資金の内容を知っているが利用したことがない人のうち、利用したことがない理由は、「必要としていない」が71.4%と最も多くなっている。前回調査と比較すると、「必要としていない」は13.5ポイント増加している。

【図 7-2-1 寡婦福祉資金を利用したことがない理由】

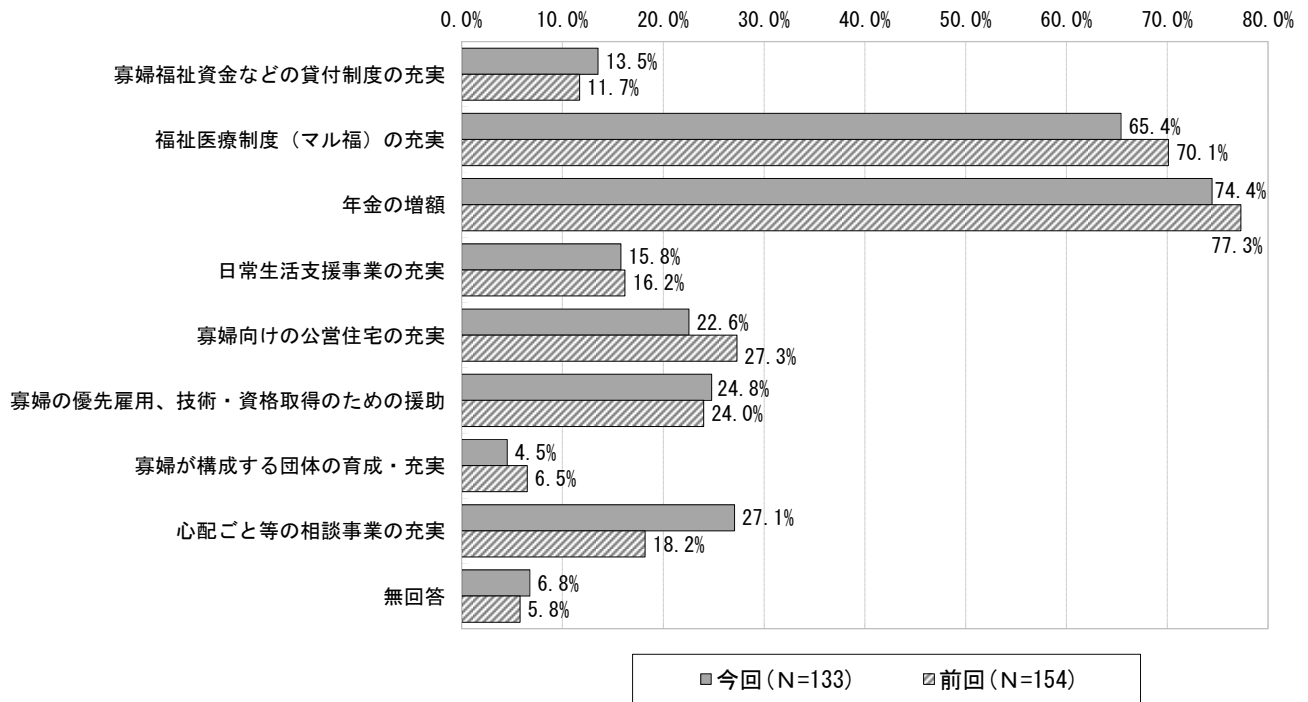


7-3 希望する施策

希望する施策は、「年金の増額」が74.4%と最も多く、次いで「福祉医療制度(マル福)」が65.4%、「心配ごと等の相談事業の充実」が27.1%となっている。

前回調査と比較すると、「心配ごと等の相談事業の充実」が8.9ポイント増加し、「福祉医療制度(マル福)」、および「寡婦向けの公営住宅の充実」が4.7ポイント減少している。

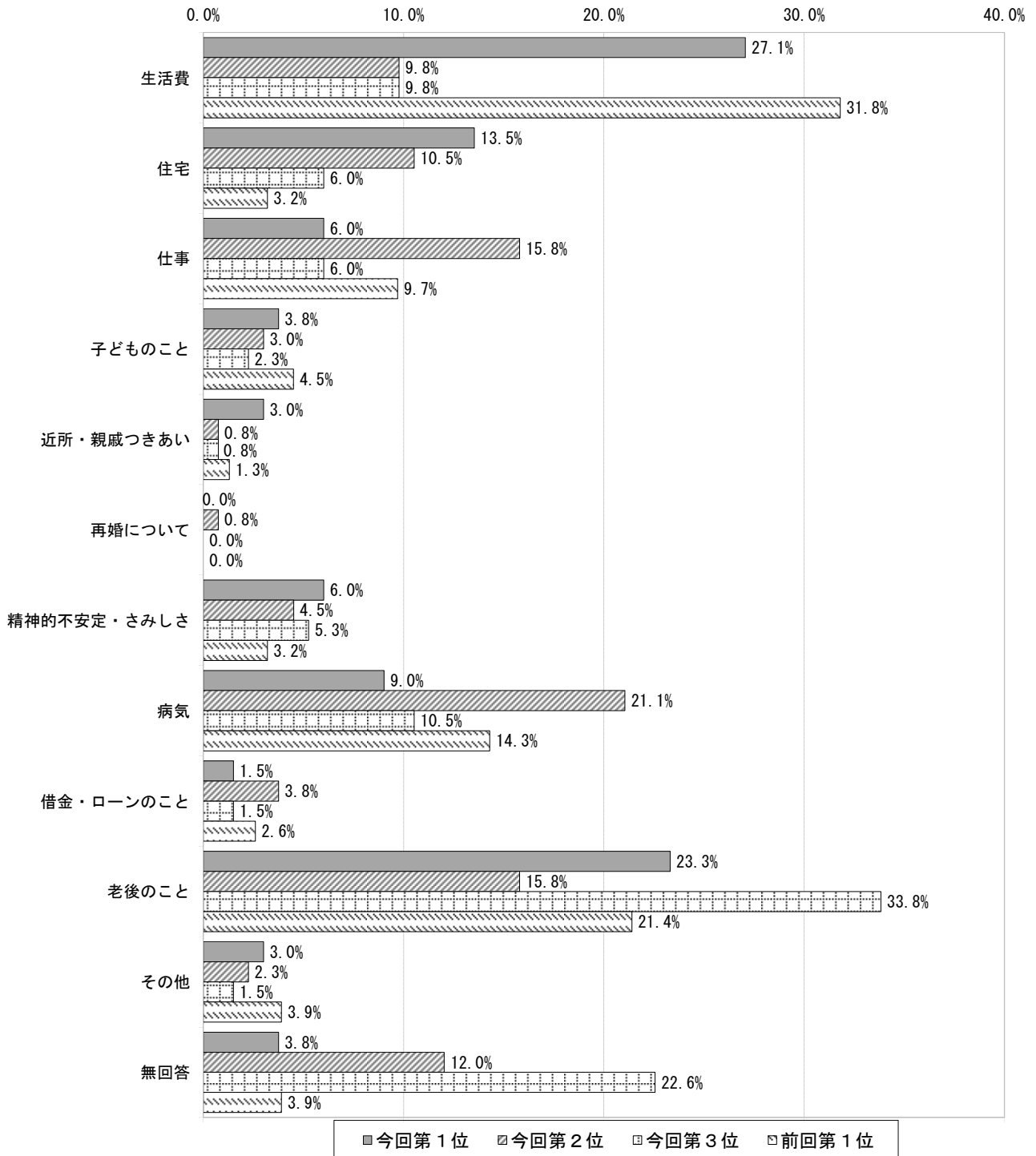
【図 7-3 希望する施策（複数回答）】



7-4 悩んでいること

悩んでいることで1位の項目は、「生活費」が27.1%と最も多く、次いで「老後のこと」が23.3%、「住宅」が13.5%となっている。2位の項目は、「病気」が21.1%と最も多く、次いで「仕事」および「老後のこと」が15.8%となっている。前回調査の1位と比べると「住宅」が10.3ポイント増加し、「病気」が5.3ポイント、「生活費」が4.7ポイント減少している。

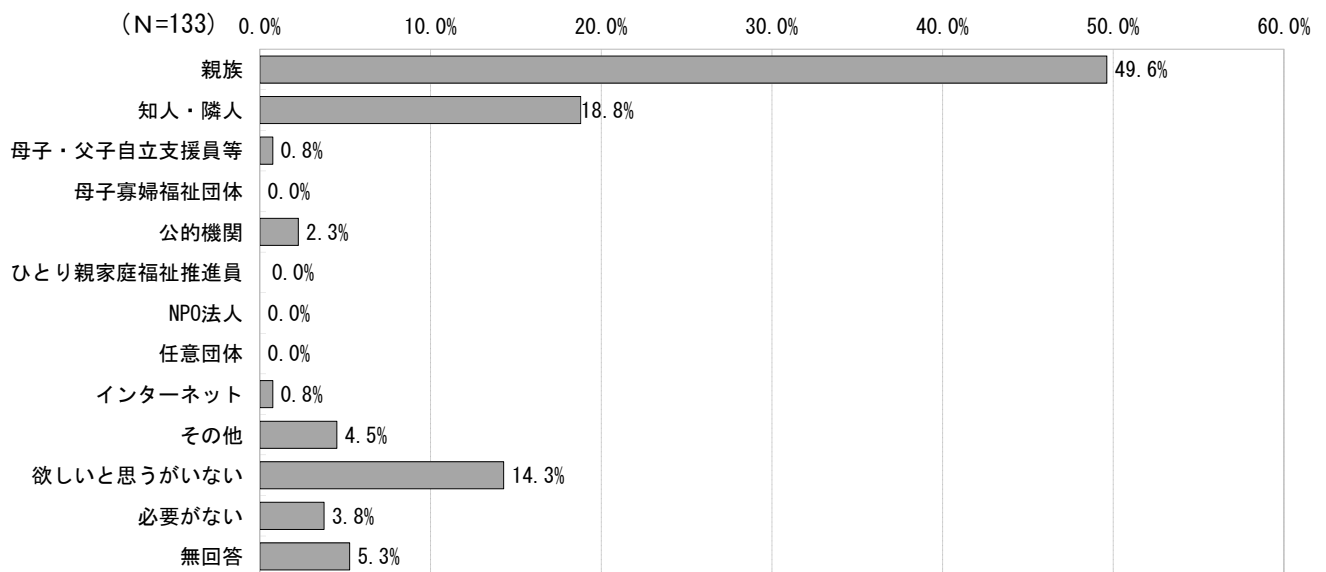
【図 7-4 悩んでいること（複数回答）】



7-5 身近な相談相手

身近な相談相手は、「親族」が49.6%と最も多く、次いで「知人・隣人」が18.8%、「欲しいと思うがない」が14.3%となっている。

【図 7-5 身近な相談相手】



平成30年度 滋賀県ひとり親家庭等生活実態調査 結果報告書

平成31年1月

発行 滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局

滋賀県大津市京町4丁目1-1

TEL 077-528-3550

FAX 077-528-4854